

# 学園だより

# 6

2013 JUNE  
VOL. 178

弘前大学



## 特集

## 新学期を迎えて

### I 巻頭言

弘前大学長 佐藤 敬 2

### II 特集新学期を迎えて

各学部長挨拶	
人文学部長	4
教育学部長	5
医学部長	6
医学部保健学科長	7
理工学部長	8
農学生命科学部長	9
新入生・在学生の声	
人文学部・人文社会学研究科	10
教育学部	12
医学部医学科	14
医学部保健学科	16
理工学部・理工学研究科	18
農学生命科学部	20

III 研究室紹介 22

IV 海外だより 26

V 新任教員自己紹介 28

VI けいじばんコーナー 30

VII 編集後記 30

# 弘大生となった 皆さんへ

弘前大学長 佐藤 敬



改めて、新入生の皆さんに、心からお祝いを申し上げます。皆さん、入学おめでとうございます。皆さんが入学されてから早くも1ヶ月が過ぎ、そろそろ大学生活にも慣れて新たな生活を楽しんでいる頃かと推測しています。

さて、皆さんにとって弘前大学の入学式は一度だけと言ってほぼ間違いないと思いますが、私にとっては今年の入学式はいつもと違って、多少物足りない感じがしたというのが正直なところであり、皆さんには申し訳なく思っています。今年は弘前市民会館が改修中で、本学第一体育館で行われたため、弘大フィルの演奏や混声合唱団による学生歌の披露ができませんでした。やむを得ない措置ではありましたが、私たちも残念に思っていることは知って欲しいと思います。また、毎年、弘前市民会館を利用させていただいていることに感謝しなければならないと改めて感じたところでもあります。しかし、来賓の方々からは、「良い入学式でした。」との声を少なからずいただいたので、多少は心がやすまる思いではあります。

ところで、弘大フィルと弘大混声合唱団は、いつも素晴らしい演奏を聴かせてくれており、コンクール等でも毎年良い成績を挙げています。できれば、入学式のセッティングの下で聴いてもらいたかったのですが、皆さんも、今後機会があったら是非聴いていただきたいと思ひますし、興味や

経験のある人は課外活動として積極的に参加してはどうでしょうか？

新入生の皆さんの中には、高校時代にオープンキャンパスで本学を訪れてくれたことのある人も多いかと思ひます。弘前大学のオープンキャンパスを訪れる高校生は毎年増えていて、去年は6,400人も参加者がありました。全員が弘前大学への入学を目指していたとは限らないにしても、それほど多くの高校生が訪れてくれたことを、主催者としては本当に嬉しく思っています。オープンキャンパスのプログラムの中で、私自身も少しだけ役目を果たし、何人かの高校生とは直接お話しもできたことを個人的に喜ばしく思ひます。また、多くの教職員の皆さんが周到な準備をして、大学の教育・研究活動の紹介に努めてくれました。それ以上に、私にとって印象的だったのは、先輩の弘大生が積極的な役割を果たしていたことであり、実際に経験している大学生の言葉を通して、弘前大学での学生生活を紹介することは最も説得力があったことと思ひます。そして、最後に、弘大生が正門につながる通りに並んで、大学生と高校生が手を振り合いながら見送り、見送られる姿は、私にとって感動的でさえありました。

新入生の皆さんも先輩に倣って、そんな弘前大学生になって下さるよう、願っています。オープンキャンパスの話は、学生生活の一コマに過ぎま



せんが、弘前大学をして弘前大学たらしめる大きな要因の一つは、学生諸君の勉学と活動です。大学での勉学に励んでもらわなければならないのはもちろんのこと、ぜひ、積極的にさまざまな活動に参加し、多様な学びを経験することを通して、自らを豊かに育てて欲しいと思います。幸い弘前大学には、全国から若者が集っており、さまざまな国から外国人留学生も来てくれています。5学部4研究所を含めた総合大学としての全容の中で、いろいろなことを考えながら教育・研究にあたっている教員と、学務部をはじめとして、学生の支援にあたる多くの事務職員も在籍しています。さらには、弘前市民や地域の企業の皆さんなど、地元の方々からも大きな支援をいただいています。皆さんの多くは18、19歳でしょうが、大学生として過ごす期間は、人間として最も成長する時期であると思っています。新入生の皆さんは、今後の大学生生活のさまざまな活動の中に貴重な学びの機会があることを意識して、大きく成長して下さるよう願っています。

最近では、企業による就職希望大学生の採用選考開始を3年生の3月に繰り下げるという政府の方針が新聞等で報道されています。予定としては、今の2年生の就職活動から適用してはどうかとのことです。皆平等ではあっても、学生諸君にとっては不安を抱かせることかもしれませんが、大学教育の本来の在り方から考えると、そのような動きには首肯せざるを得ないと思います。したがって、これまでも就職支援には力を入れ、成果を挙げてきたと自認していますが、必要に応じて就職支援事業を強化して、学生諸君の負担を少しでも減らすことができると考えています。とは言え、やはり、就職活動の主体は個々の学生本人ですから、これまでよりは短期決戦になると、学生諸君への影響が小さくないことは間違いないでしょう。しかしながら、就職活動にも王道などあり得ないと思います。皆さんは、大学生としての勉学をしっかりと修め、多様な経験を積むことを通して、大きく成長した姿をもって、就職活動を成功

裡に乗り越えて下さることを強く望んでいます。

そこで、まずは大学生として勉学に取り組む姿勢を明確にすることが今の皆さんにとって必要です。上にも述べましたが、皆さんはさまざまな機会を自ら求めて学ぶことによって、自分自身を際限なく育てていけるのが、大学における学問の大きな利点です。また、大学における学問の課題には、しばしば単一の正解はないことも多いかと思いますが、それは、一つの学びが一つの正解を得て終わるのではなく、さらに新たな学びへと展開していく可能性の大なることを意味してもいます。

大学の講義や演習、実習の中で湧いてきた疑問でも、十分理解できなかったことでも、なんでも良いのです。なにかしら一つの課題を自分で設定して、自分で調べて自分で考え、答えを求めて、どんどん勉学を進めて行くと良いのです。必ずしも大学のカリキュラムと歩調を合わせて勉学を進める必要はありません。調べる材料は、皆さんの周りにたくさんあります。利用の仕方を吟味すれば、インターネットは情報の宝庫であり、学内にも皆さんが使えるPCが多数設置されています。個人的には、インターネット以上に図書館の役割を重視したいと思いますが、もし、何もすることがない空き時間には、図書館に行って本や資料を眺めてみるだけでも、必ずなんらかの発見があるはずです。去年から設置されたイングリッシュ・ラウンジでは、生きた英語を学ぶことができ、それによって新たな可能性も広がります。また、できれば、何らかのサークル活動に参加することをお勧めします。クラスメートだけでなく、一緒に活動する先輩や仲間が増えることによって、その人たちから、意識することなく自然に多くを学ぶこともできるでしょう。

学ぶことばかり書きましたが、大学生活にはこれまで以上に時間的余裕があるのは事実です。皆さんには大きな可能性があるが故に、皆さんの入学を心からお祝いするとともに、皆さんが大学生活を楽しみながら、充実した毎日を送られるよう願ってやみません。

# 過去から学び、未来を見すえ、 いま 現在を生きる —新入生の皆さんへ—

Faculty of Humanities 人文学部長

## 今井正浩



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。  
人文学部長の今井と申します。専門は西洋古典学  
(ヨーロッパの文化的源流にあたる西洋古典古代の  
原典を研究する学問)です。

どうぞ、よろしく願い申し上げます。

弘前大学人文学部は、人文社会科学の融合学部と  
して、人文社会科学系の学問を志望する学生諸君、  
海外からの数多くの留学生諸氏に対して、当該分野  
の学習・研究の場を提供してきました。その前身  
は、大正9年(1920年)に創立され、若き日の  
太宰治(津島修治)も学んだ旧制・弘前高等学校で  
あります。旧制・弘前高等学校の在学時に、津島修  
治が受講した講義の自筆ノート類が、数年前、弘前  
大学附属図書館に寄贈されました。そこからは、人  
文学部にかぎらず、弘前大学が今日までになってき  
た学問的伝統の重みを実感することができます。か  
れの遺したノート類に関しては、その復刻版が弘前  
大学出版会より刊行されていますので、一度、手に  
とってみてはいかがでしょうか。また、昨年、オープ  
ンしたばかりの弘前大学資料館には、弘前大学に関  
係のある貴重な資料類が数多く展示されています。  
ぜひ、足を運んでいただきたいものです。

伝統の重みなどというと、いかにも懐古趣味のよ  
うな印象を与えるかもしれません。新入生の皆さん  
のように、自分自身の将来に対して、夢と希望に大  
きく胸をふくらませている若い人たちにとっては、  
なおさら、そのように感じられるかもしれません。  
けれども、人生の節目において、過去をふりかえる  
ことをとおして、皆さん一人一人がどれほど多くの  
ものを人生の先輩たちから受けついできているかを  
きちんと理解することは、皆さんが自分自身の未来

を着実なかたちで見すえるためにも、とても重要な  
ことであると思います。それは、学業生活に関して  
も同じことです。弘前大学における皆さんの学業生  
活が多くの先人たちによって積み上げられた学問的  
伝統のうえに成り立っているということをいつも自  
覚しながら、現在(いま)を生きる——少なくと  
も、そのように生きようと努力する——ことは、皆  
さん自身の現在の立ち位置をはっきりさせるのに、  
大いに役立ちます。それはまた、皆さん一人一人の  
夢を夢にとどめるのではなく、希望をたんに希望の  
ままに終わらせることなく、確実に未来を志向する  
うえで必要なことであります。

わたくしは、1996年に弘前大学に教員として赴  
任し、今年で18年目をむかえました。弘前という  
都市は、古き良き伝統と新時代のトレンドが見事に  
調和した、静かで落ち着いた街であるという印象  
を、この地で年齢を重ねるごとに強くしています。  
新入生の皆さんのなかには、郷里を遠く離れて、単  
身、大学生として、この地で新しい生活を始める  
という人もいるでしょう。その一方で、この北国の地  
に生まれ育ち、地元の大学である弘前大学に進学し  
たという人もいるでしょう。大学生として、この地  
で新しい生活を始める人には、弘前という街が学業  
を中心とした生活に最適の環境を提供してくれるこ  
とをお約束します。地元出身の人には、弘前という  
都市空間が、学業を中心とした生活をおくるう  
えで、日本全国において、すでに稀少ともいえるよ  
うな学習環境を形成しているということを再認識して  
ほしいものです。

弘前大学において、皆さんが充実した大学生活を  
送られることを心から願っております。



# 新入生の皆さんへ

Faculty of Education

教育学部長

## 伊藤 成治



弘前大学教育学部に入学した新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんの中には、既に明確な人生の目標があって、その目標実現のためにこれからの大学生活を送ろうと決意している人もいます。あるいは、かつて私がそうであったように、まだ将来への明確な目標があるというわけではなく、しかし、大学で多くの人との出会いや様々な学問に触れることを期待してわくわくしている人もいます。いずれにしろ、これから皆さんが、この教育学部で、充実した学生生活をお送りになることを、心より願っています。

教育学部は、幼児・児童・生徒の支援者となる学校教員と地域社会で学校外教育や成人教育に関わる専門家の養成を行っています。

学校教育における課題が、一層複雑・多様化している現在の状況において、学校は、今以上に、保護者や地域住民との適切な役割分担を図りながら、子どもたちのバランスの取れた成長を目指し、活気ある教育活動を展開する場となる必要があります。その際、教育を提供する側からの発想だけではなく、教育を受ける側の子どもや保護者の声に応える教育の場となることが求められています。保護者や地域住民の期待に応え、信頼される学校づくりを進めていくためには、何よりも教員自身が自信と誇りを持って教育活動にあたる必要があります。

教育学部には多様な課程・専攻・専修が用意されています。そこでは、学生自身が自分で課題を見つけ、考え、判断し、行動することで、問題解決のための資質や能力、とりわけ、その後の長い職業生活を支えることになる、自信と誇りの種になるものを得ることのできるカリキュラムが設定されています。

ところで、昨今の日本は、高齢化と少子化の問題が明確になってきています。日本は社会全体で、あらゆる分野の改革に取り組むときを迎えているようです。世界では、環境、エネルギー、食糧などの問題が深刻化しつつあります。

このような時に重要なのは、人類の歴史や現代社会に通ずる普遍的な考え方、高い価値観を身につけ、そしてそれを現実の問題に果敢に適用していくことです。

その前提として深い知識とともに、それを運用できる訓練、すなわち、独りよがりではなく、仲間や先生と一緒に考えられる力とコミュニケーション能力とを身に付けるための訓練が不可欠となります。知識というのは、それ自体としてももちろん価値あるものですが、ある知識を自分で納得するだけでなく、人に伝え納得させることが必要だからです。

皆さんは、主としてそれぞれの専門分野を学修していく中で、このようなことを体験していくことになると思います。

最後に皆さんに、強く申し上げておきたいことがあります。現代社会は誘惑の社会です。私たち教職員にとって、学生としての本分を踏み外して、不幸にも大変な重荷を背負ってしまった学生を前にすることほど悲しいことはありません。万一迷いが生じることがあったら、勇気を持って相談の窓口の扉をたたいていただきたいと思います。

皆さん一人ひとりが自己の可能性を最大限に引き出し、新しい時代に向けて果敢にチャレンジするために、弘前大学でしなやかな、かつ粘り強い知力・気力・体力を養ってくださることを心から期待しています。

## 学生時代の出会い

School of Medicine

医学部長

中路重之



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。4月に弘前大学の学生として正門をくぐった感想はいかがでしたか？ これからいよいよ充実した大学生活が始まりますね。

私は今からちょうど40年前の昭和48年に長崎県から弘前大学に入学しました。

入学と同時に新寺町の山内下宿に入りました。弘前高校のすぐ横です。私の青森人生における最大の僥倖は、この山内下宿のご家族に会えたことです。本当にそう思っています。その証拠に、私はこの弘前、青森でただの一度も寂しさを感じたことはありません。

下宿のおじさんとおばさんは私の文字通りの“親代わり”です。何度か怒られたこともあります。生まれて初めて恋愛の悩みを聞いてもらえたのも下宿のおじさんでした。黙って私を見ながら聞き入ってくれた姿を今でも思い出します。おばさんは本当に優しい方で、休みのたびに帰省する私の長旅（急行北国）にいつも大きなおにぎりを2個用意してくれました。下宿には息子さん2人と娘さんが一人いました。今でも兄弟のように付き合っています。

下宿では月1回誕生会（飲み会）が開かれました。下宿人は総勢10名くらいでしたが数人の仲間も外から参加しました。そのころカラオケはまだなく、宴会半ばからは常に歌自慢の私の独壇場でした。先輩のバックコーラスで内山田洋とクールファイブの「長崎は今日も雨だった」を歌うのが常でした。

下宿の食事はお世辞抜きでおいしかったです。遊びに来た同級生は食事を見て一様に驚きました。調子に乗った私は「お前の下宿の飯はまずいらしいな」と理不尽な振り方をしては反感を買っていたものです。

食事は下宿のご家族と一緒にとっていましたが、学校の出来事をよく聞かれました。どんな勉強をしているのとか、どんな先生がいるのとか、誰々君は

どうしてるとか、です。おじさんもおばさんも私たちの友人のことをよく知っていました。なかには、食事代だけ払って食事だけのために通ってきた先輩もいました。その度におじさんの晩酌の相手をして楽しんでいたその先輩も数年前に亡くなりました。

こんなこともあります、それは下宿のみそ汁のことです。長崎から来たばかりの頃は下宿のみそ汁は「とてもしょっぱい」ものでした。それでも、飲まないとしりたくないという気持ちで、毎日お椀をぬらすだけの量を飲んでいたので。ある日おじさんにそれがみつかりました。「うちのみそ汁はそんなにまずいんだな!」、「いえ、そんなことはありません。それから我慢して普通量の一杯を飲むようにしました。ところがです。そうしているうちに、そのしょっぱさが何とも感じなくなったのです。いやむしろ不思議なことに、今度は長崎に帰省して飲む母親のみそ汁を実に「味気ない」と感じるようになってしまったのでした。

ある日、おじさんから「日曜食事なし」が提案されました。今では普通のことですが、年中休みなしの賄いはたしかに重労働だったと思います。しかし、この時ばかりは私も激しく抗議しました。「一日食事なしは耐えられません!」。いつも文無しの私には大変な意味を持っていました。おじさん、おばさんには提案を撤回していただきました。

数年前、下宿の先輩がおじさんとおばさんを招待して東京でパーティーを開きたいということで私もお供しました。浅草に繰り出し、雷門付近のてんぷら屋でお酒を飲みました。いい気分になったおじさんが「さ、もう帰るべ」と言い出したのには驚きました。「いやいや、あの浅草寺の線香の煙を浴びなくては」。その短気さが笑えました。

ときには傷つけたり傷ついたりもしますが、人生を豊かにするのは人とのつながりです。新入生の皆さんには、学生時代にたくさんの方と知り合って、人生の宝としてください。



# ようこそ医学部保健学科へ

School of Health Science

医学部保健学科長

對馬 均



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんの入学を心から歓迎いたします。

厳しい受験勉強を経て晴れて獲得した大学生活であればこそ、入学にあたって目標とした事柄を忘れることなく、これからの学生生活を充実させていきたいと思えます。

医学部保健学科に入学された皆さんは、それぞれ“看護師になりたいとか、理学療法士になりたい…”というように、明確な目標を持って入学されたことと思えます。このように、入学時に卒業後の方向性がほぼ決まっているのが保健学科の特徴と言えるかも知れません。こうしたことから、保健学科の教育にはつぎのような特色があります。

まずカリキュラムについてですが、医学部保健学科では、1年次前期から専門科目の導入的学習が開始される“くさび型カリキュラム”が各専攻で採用されています。これは、後に紹介する国家試験受験に必要な専門科目の学修を効果的に進めるという意図によるものです。カリキュラムはゆとりをもって学修できるよう教育内容を精選した編成となっていますが、他の学部と比べると忙しい時間割となっています。ぜひ時間を有効に使って、自律的に勉学を進めていただきたいと思います。

つぎに挙げられるのが臨地・臨床実習です。保健学科のカリキュラムの最大の特徴は、医療現場で指導者のもと実際に専門技術の実習を長期間にわたって行う「臨地実習」や「臨床実習」という必修科目があることです。この実習は段階的に行われ、時期については専攻によって異なりますが、本格的な実

習は3年次から開始されます。

もう一つの特色が国家試験です。卒業に必要な要件を満たして卒業を迎えると、それぞれの専門職の国家試験を受験する資格が得られます。国家試験は各専門職ごとに、毎年2月下旬から3月上旬にかけて行われています。国家試験の合格率は毎年90%台を維持しており、今年は全専攻平均で96.0%でした。4年後、皆さんもこれに続いてぜひ全員合格を目指していただければと思います。

入学から約2ヵ月を過ぎ、新入生の皆さんも保健学科での大学生活の流れに慣れてきたことと思われれます。目標として掲げた医療専門職を目指して勉学に励むことはもちろんですが、部活動などの課外活動を通して他学部の学生と交流し、さまざまな価値観に触れ、人間としての厚みをつけて欲しいと思います。また、全国でも最大規模の“5専攻からなる保健学科”というメリットを活かして、職種は異なるとは言え、同じ“医療専門職”を目指す他専攻の学生とも積極的に交流してください。間違いなく卒業後の仕事に役立つことでしょう。

さて、春に芽吹いた草花や木々は、花を咲かせ、若葉を茂らせ、どんどん成長して行きますが、このエネルギーに満ちた若葉のように、皆さんも大学での学業、そして部活動や仲間との語りを通してさまざまなことを吸収し、人間として大きく成長されることでしょう。青春時代に与えられた4年間という時間を有効に使って、充実した大学生活を送られるよう願っています。

# 大学における学びとは 何でしょうか？

Faculty of Science and Technology 理工学部長

吉澤 篤



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんはどのようなことを大学に期待していますか。私は昨年の学園だよりで新入生の皆さんへの注文を書きました（是非こちらも読んでください）。今年は私の学生時代を振り返ってみます。

私は1976年に大学に入学しました。当時はどの大学にも教養部があり、私は現在の21世紀教育に相当する教養教育を2年かけて学びました。入学から3ヶ月経った頃は理系の講義内容を消化できなくなっており、夏休みに全部復習すれば試験はなんとかかなるだろうとなかばあきらめていました。高校のように時間割を授業で埋めてしまったのですが、入学後の気のゆるみもあり、勉強しなかったことが原因です。2年生になると一日1ないし2科目となり、十分時間が取れて、ようやく大学の講義を受けるに必要な予習が出来ました。すると大学の講義が面白くなり出しました。2年生が終わった春休みに小出昭一郎著「量子論」を読み、自分ながらおぼろげに電子の挙動についてイメージをつかみました。当時は教養と専門がはっきりわかれており、3年生になり学部へ進むと生活が一変しました。午前中は専門科目の講義や演習、そして午後は実験で埋まり、朝から夕方まで大学にいました。日曜日は下宿で宿題や実験レポートの作成に追われました。有機化学と無機化学は英語の教科書で、実験書も英語やドイツ語でした。32年後に知ったのですが、有機化学の教科書を選定するにあたって、海外の30大学のカリキュラムを取り寄せて調べたとのことでした。今でも印象に残っている講義があります。ある日、熊田誠教授が無機化学の講義で量子力学から得られた近似を用い原子内の電子配置を理路整然と解説されました。これにより私の化学に対する認識がガラッと変わりました。こんなに面白学問なんだと。それは春休み中に量子論を読んだこと（理解したとは言いません）により、先生の講義に対する下地が出来ていたのだと思います。また、学生実験を

指導していただいた助教授の先生が白色固体の化合物が入ったサンプル瓶を手に取り、「化学は哲学的だ」と言われました。化学者はこの白い固体に分子構造を観るとのことでした。化学をこれから飯の種類にしようと思った次第です。講義室と同じフロアにある研究室の教員や学生のネームカードがあり、その筆頭者の教授のカードは私が朝来ても夜帰るときもいつも在室になっていました。4年生となり、私はその不夜城のような田伏研究室に入れていただきました。確かに田伏先生は月曜から土曜まで朝8時から夜10時半頃まで教授室におられ、日曜日は12時過ぎに来られて夕方には帰宅されました。海外出張の際も大学から空港へ、そして夜遅くても大学に戻ってこられました。先生のところには企業の方を含め、多くの来客がありました。しかし、先生は学生との時間をとても大切にされており、私も先生と一緒によく教授室で過ごしました。多くは研究進捗についての厳しいご指導でしたが、これからの化学の将来について先生の夢が語られました。それはまだ本になっていない貴重な話でした。研究室での生活を通し、研究の標準というものを選びました。また、学問がどのように創られるのかをそばで観ていました。そして、先生が私たちを教育していただいたかげで先生自らは多くを犠牲にしておられたことを後になって知りました。手元に当時の写真があります。そのなかで、11名が現在教授となり、リーダーとして活躍しています。私の専門である化学を例に取りましたが、ここで話したことは化学に限ったことではありません。

さて、現在、大学における学びの姿が大きくかわろうとしています。大学からもいろいろなメニューが提供されるでしょう。しかし、大学に来て授業に出席し、板書をきれいにノートに写すことで満足しないでください。準備された心には見えませんが、それらは生きる糧となるとともに、これからの道しるべになると信じています。



# 新入生への期待

Faculty of Agriculture and Life Science 農学生命科学部長

佐々木 長市



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。長い冬もようやく終わり、春の風とともに皆さんを受け入れられることに感謝しています。入学に際し、皆さんへの期待を述べたいと思います。

一つ目は、大きな夢を持ってほしいと言うことです。私は就任早々「リンゴ博物館」を作りたいという夢を語りました。青森はリンゴ「ふじ」の発祥の地であり、かつ日本一のリンゴ生産県です。この地に、「りんご博物館」といった施設があるのは県民の誇りになると考えたのです。実現までには時間を要するかもしれませんが、この夢を持つだけで心がわくわくします。そして、これまで何気なくみていた博物館や図書館に対し、展示様式や身障者の施設等の有無にまで関心が及ぶようになりました。皆さんも、初心を持って大学に入学したと思います。あるいは大きな夢を持って入学したと思います。この初心や夢を叶えるためにどうしたらよいか考え、少しでもその夢に近づけるように取り組んでほしいと思います。また、夢を決めかねている人は、この4年間あるいは6年間をかけて一生取り組めるような夢を見つけ出してくれることを期待しています。

二つ目は弘前の良さを語れるようになってほしいということです。皆さんは、ここ弘前で貴重な青春時代を過ごすこととなります。弘前は日本一の桜の名所といわれ、白神山地という世界自然遺産に登録された場所に隣接した自然豊かな場所です。農学生命科学部付属の藤崎農場は世界的に有名なリンゴ「ふじ」の発祥の地で、ここで農場実習等を実施します。更に、金木農場は、文豪 太宰治の「津軽」という小説に出てくる場所の一つでもあります。弘前市は、津軽藩の中心的な場所として栄え、文化の

薫りのする町でもあります。青森県は、周囲に日本海から太平洋までをもつ日本唯一の県であり、海の幸にも恵まれた豊かな県です。こうした、素晴らしい場所で学べることを知り、帰郷時にこの町の良さを周囲の人に語れるようになってほしいと思います。住めば都とは言いますが、良さを言葉で語るのはなかなか難しいかもしれません。しかし、将来の就職時の面接や自己アピールの良い勉強になります。1年目は特に、環境の違いに敏感な時期です。こうした時期の感動を大切にし、自分だけの弘前の良さも見つけ出してください。

三つ目は、良い友人をたくさんつくってほしいと言うことです。私が今付き合っている友人の多くは大学時代に巡り会った人たちです。青春の自由な雰囲気の中で様々なことを共有してきた仲間との語らひは今も歳月の経過を忘れさせてくれます。そうした友人が、学部やクラスを超えてたくさんできるのが大学時代です。私も、学生時代馬術部の友人ができ、夜間の馬の病気等にそなえ部員の誰かが宿泊するので、泊まってくれと言われ宿泊しました。乗馬の格好よさは知っていましたが、その世話の大変なことに驚きました。自分の知ることのない世界をこの友人のおかげで垣間見ることができました。知り合った人の夢を知り触発されることもあります。見た目と違う大きな夢を持っている友人であることにびっくりもします。また、ちょっとした悩みもこうした友人に相談すると軽減されます。ありきたりですが、友人はお金で買えない一生の財産です。

最後になりますが、こうした就学の機会を与えてくれた両親と関係者に感謝を忘れないでほしいと思います。

## 「新たな出会い」

人文学部 人間文化課程1年 馬場 真琴



新入生

高校卒業まで北海道に住んでいた私にとって、青森県はお隣の県であり、なんとなく近い印象を持っていました。ところが実際に移動してみると、弘前市まで電車で半日以上。北海道も青森もこんなに広がったんだ、と自分の想像力のなさを痛感しました。

大学生生活に慣れるのに精一杯だったこの1か月間、私は多くの方々との出会い、何度も助けていただきました。人文学部はもちろん、理工、教育など様々な学部の先輩方にお世話になり、農業生命科学部の友達も出来ました。全く違う方向を目指してやって来た学生たちが、同じ大学の中で学部も学年も越えて自由に関わり合っているのを感じ、私もその中の一人になりたいと強く思うようになりました。

ある時理工学部の友達に、「人文って何をするとところなの？」と聞かれて、私はうまく答えることが出来ませんでした。私は一体人文学部で何をしたいのか、どうして人文学部なのか、とても曖昧だったということに気がきました。この大学で多くの人と関わって、高校の時のような想像ではない現実の経験を重ねて世界を広げ、答えを見つけたいと思います。この原稿を読んでくださった方も、どこかで出会えることを楽しみにしています。

## Mighty oaks from little acorns grow

人文学部 現代社会課程1年 石川 栞帆



新入生

「すごい所に来てしまった…!!」

山形県から電車を何回か乗り継ぎ、弘前市に初めて着いた時に、発した言葉です。目の前は、一面真っ白な雪で、かの有名な、「トンネルを抜けるとそこは雪国であった」という台詞の様な情景でした。そんな時から、はや3か月が過ぎ、大学生生活にも、ポチポチ慣れてきた所です。高校の授業とは、打って変わり、大学では、受け身でいては、何も習得することが出来ませんし、時間ばかりが過ぎていきます。「チャンスは自分で掴め」とよく言われますが、正にその通りであるなど、しみじみと実感しています。私は、ここ弘前で、社会に役に立つ人間へと成長し、将来は、地元である山形で地域貢献に努めていきたいと考えています。そのためには、小さな事からコツコツと努力をしていくことが大切だと思います。

私の好きな言葉に、「Mighty oaks from little acorns grow」があります。意味は、「巨大なオークの木と言っても、元はと言えば小さなどんぐりにすぎない」です。大きな物事でも、コツコツ積み重ねていくことで、きちんと自分の中で消化することが出来るようになると思います。だから、私は、大好きな英語の勉強を生かし、まず、自分の目の前にあることから行っていきます。

## 青森で過ごす今と未来

人文学部 経済経営課程1年 三浦 聖貴



新入生

入学してまず驚いたのは、県外からの入学生が自分の予想を遥かに上回っていたことである。私は、生粋の青森県人で、自分の生まれ育った青森県の「魅力」を意識してきたことはなかった。青森県を特別であるとか、青森県には他の県に誇れる特別な何かがあると意識したことがあまりなかったのである。これまで県外に関心を持つ機会がほとんどなかったせいにするわけではないが、むしろ青森県の「外」にただ憧れを抱いていたのかもしれない。

弘前大学に入学してから、県の「外」からの友人を持ち、自分とは大きく異なる価値観・文化・知識などの波に触れ、自分の価値観が「ふつう」ではないということに認識し始めてきた。と同時に、それが十分貴重な価値をもっているということも。それに気付けただけでも、私は本学に入学した価値があったと思う。

異なる文化をもつ人々が、大学という一つの環境で共に学び、過ごすことで生まれる新たな文化の形、あるいは一個人として異文化人と過ごすための教訓が学べるのではないかと感じた。

私は「青森人」として、この青森から「外」の人たちと共存する術も同時に身に着けていこうと思っている。



在学生

## 弘前大学へようこそ

人文学部 人間文化課程 4年 村上志桜里



「よく学び、よく遊べ」これは私の所属する日本古典文学ゼミのモットーです。これがなかなか難しいところで、どうしても遊びに全力を傾けてしまいたくなります。ですが、それは本当はすごく勿体ないことかもしれないですね。自分が学びたいと思えば、好きなだけ学べる時間と環境がある。これってすごく貴重なことですよね。社会人になってできないことは、実は沢山遊ぶことよりも、何かを学ぶ事かもしれません。

新入生の皆さんには、これから4年間の大学生活が待っています。まっさらな時間がたくさんあります。出身地や年齢、学部も異なる様々な人がいます。その中で何を選び誰とどう過ごすか、その選択は個人の自由です。サークル活動をする、バイトする、留学する、友達と遊ぶ、資格を取る、ボランティアをする、色んな授業に出てみる、何か一つ学問を究める…色んな道があります。私は今4年生になって、大学生の一番の特徴は「選択の自由」ではないかと思っています。皆さんはその自由をどう使ってどう過ごすのでしょうか。

皆さんの大学生活が、これからの人生の中でもとびきり大事な思い出になるようなものであることを祈ります。弘前大学へ、ようこそ！

在学生

## 大学でやるべきこと

人文学部 現代社会課程 4年 斉藤 未湖



弘前名物の満開の桜も過ぎ去った6月、この時期といえば道民が一様に驚く「本州の梅雨」の頃でしょうか。やる気の失せるこの時期に、4年生の私から新入生へ大学でやるべきことを1つ。

近年の学生の傾向としては、長く就職していられて待遇の良いことを望んでいると思います。日本の景気の状態を鑑みれば、このような考えを持つことは全く素晴らしく現実的であると思います。そのような考えを前提に抽象的なアドバイスを。

1、興味のある学問を追求すること。現在の日本企業の求める人材像として「即戦力」という単語が上がりますが、大学を出たばかりの人間にそんな物が備わっているはずがないのです。企業は「大学で何をどれだけ自主的に学んだか」が聞きたいのです。日本古典文学だろうと英国児童文学だろうと、専門をどれだけ真剣に自主的に学んだかを企業は見ます。

2、その学年で習得しうる限りの知識を身に付けること。いくら学んでもその分野の専門家には勝てるはずはありません。4年生大学程度の専門知識を身につけましょう。その証明は、資格か、面接という形で発表となります。就職までに自分が「大学」ですべきこと、考えながら励んでください。

在学生

## 新入生のみなさんへ

人文学部 経済経営課程 3年 清野 ゆり



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。入学から1ヵ月が経ち、大学生活や一人暮らしには慣れてきたころでしょうか？

私は現在大学3年ですが、これまでの大学生活を振り返ると、あっという間に過ぎてしまったという印象があります。大学生になると、自由に使える時間が多くなるので、勉強、アルバイト、サークル、ボランティアなど、自分のために時間を費やすことができます。私は3年生になった今、1年生のころからしっかり計画的に勉強しておけばよかったと後悔しています。なので、みなさんは、1年生のうちから積極的に行動してみてください。

私は小さい頃から、留学してみたいと漠然と考えていましたが、大学に入学して学校で留学生を見かけたり、留学説明会に行って話を聞いているうちに、こんなに自由な時間のある大学生のうちに留学しないともったいない、今しかできないかもしれないと思い、両親の承諾をもらい、夏からの留学が決まりました。

大学生は、人生のなかで一番時間のある時期だとよく聞きますが、この大学生の時間を有効に使い、両親にも感謝しながら、おそらく1度しかない大学生活を充実させてください。

新入生

## 新たな一歩

教育学部 学校教育教員養成課程1年 柴田 鮎

私は、このたび弘前大学に入学させていただきました柴田鮎と申します。今春3月、青森県立青森戸山高等学校美術科を卒業し、ここ教育学部学校教育教員養成課程教科教育専攻美術専修に所属することになりました。よろしくお願いします。

私が本学に入学する際に上げた目標は大きく2つあります。1つはやはり教員になるための知識を身につけることです。教員になるには免許を取得するために幅広い分野を学ぶことはもちろんですが、それだけではいい教員になれるとは言えません。子どもたちの心の変化や人間関係に目を向ける意識など、内面的なものに気がつく事も大切だと考えます。2つ目は美術の技術、知識をさらに身につけることです。高校で学んだ事を土台に、デッサンなどの技術面の向上、美術史や色彩などの知識の幅を広げることに専念したいと思います。

大学はこれまでの環境とは大きく異なり、自分から行動しなければ、何もしないまま4年が過ぎてしまうといえます。ただ受け身でいるのではなく、自ら積極的に動いて、勉学はもちろんのこと、部活やサークルにも楽しみながら参加していきたいと思っています。

以上、簡潔でしたが弘前大学の新たな一員となったことについての言葉とさせていただきます。これからよろしくお願いします。

新入生

## 大切なご縁

教育学部 生涯教育課程1年 中村 円香



4月に入学式を終え、1ヶ月が経ちました。知り合いは徐々に増え、学生としての生活も少しずつ理解し始めてはいますが、未だ「大学生」という響きが、自分自身の体の丈に馴染んでいない気がしています。

思えば、随分長い時間を生きてきたものです。小学校の頃は、ずっと自分が小学生で居続けるような気がしていました。6年という期間が人生の半分だったその頃を思えば当たり前なのかもしれませんが、それでも自分が「大学生」になるなんて、思ってもみなかったことです。

幼かったあの頃の私が何より嫌だったことは、私の知らない場所で知らない人が生まれ、知らないままに消えていくことでありました。その人はとんでもなく素敵な人で、会わなければ絶対損をする「かもしれない」のに、私もその人も、会わないうまま死んでいく。それが幼い自分にはひどく悲しく感じられて、どこかに行かなきゃ、だれかに会わなきゃと、日々焦っていました。ある日は絵を描いたり物語を作ったり、時にはなりきってみたりして、誰かに見つけてほしくて、誰に向けてでもなく自分を主張して見ようとしたのです。

そんな自己主張が極まって私は美術を始め、芸術にのめり込みました。そして、芸術を学ぶためにここに来ました。1ヶ月過ごした大学という場所、弘前という街は、大層へんてこな所です。へんてこは、とても見つけやすくて良いものです。ここもまた、あの頃の私が来たかった場所の一つなのでしょう。このご縁は大切なものです。幼い自分がどれだけ望んでも、得られなかったものです。この幸せと、全ての出会いに感謝し、忘れず、決して無駄にしない4年間にしていきたいと思っています。

新入生

## 弘前大学の新たな一員となったこと

教育学部 生涯教育課程1年 三浦 寿子

弘前大学は高校と違い、自分自身が興味のある授業を学ぶことができるので、関心のある芸術について、勉学に励みたいのです。今一番楽しいと思っている科目は芸術文化概論です。私は美術専攻なのでミュージシャンや作曲家など音楽に関することは分かりません。ですが美術と音楽それぞれの視点から芸術を見たとき、表現は違っても考え方は似ているのだと教わりました。自分の考え方と違うこともありますが客観的な見方、考え方ができるようがんばっていきましょう。

また、サークルはキャリアサポートに入り、研修を受けてコミュニケーションのやり方をしっかり覚えようと思います。実際、高校生と対話してもすぐに悩みを打ち明けてもらえないそうです。なのでゲームやアイスブレイクを行い打ち解けて、彼らに本音を言ってもらえるようがんばります。そしてキャリアサポートを通して、東北女子大学や保健大学などと交流して、青森県内の高校生の役に立てるよう、コミュニケーションを図っていきましょう。



在学生

## 有意義な大学生生活を

教育学部 生涯教育課程4年 向田 藍子



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そろそろ大学生活にも慣れてきたでしょうか。

大学に入学したばかりの皆さんには、これからやってみたいことがいろいろあると思います。大学での4年間は本当にあっという間です。ですが、大学生は授業の合間の時間や春休み・夏休みなど、自由に使える時間が多いと思います。これからの4年間で有効に使って、サークルや部活動、旅行、ボランティアなど自分のやりたいことにどんどん挑戦してみてください。大学は自主的に学んだり、経験を積んだりできる場所だと思います。もちろん勉強は大事ですが、勉強だけでは得られない様々な経験や体験が自分を成長させ、視野を広げてくれるはず。自分の時間をどう使うかで4年後の自分の姿が変わってくるでしょう。

ぜひ、楽しく有意義な大学生活を送ってください。

在学生

## 大学生生活を迷るにあたって

教育学部 学校教育教員養成課程3年 原口恭司郎



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活にも慣れている頃でしょうか。早速ですが、大学生活は4年間と雖もあっという間です。そこで、皆さんに私なりの3つのポイントをお伝えします。

一つ目に、多くの事に挑戦する事です。大学生活の中では様々な授業、自発的な学習、サークル、バイト等多くの事に取り組んでみてください。授業であれば専門科目だけでなく興味のある若しくは得意な科目、得意になりたい科目にも挑戦してみてください。これは勉強だけでなく、サークルやアルバイトにも当てはまります。これらの体験を通して人間的な豊かさ・素養を養ってください。大学生活は色んな事を吸収できる絶好のチャンスです。

二つ目に、選択の幅を狭め過ぎない事です。自分が将来どうなっているかなんて予測不可能です。それ故に自分の将来に今は関係無い様に思える事、興味の持てない事も切り捨てないでください。やらないで後悔よりやって後悔した方が自分を見つめ、高められます。

最後に、様々な人と関わり、自己を高め成長していくことです。人間関係の中で自己分析をし、相手の良い所や思想、自分に足りないと感じる事を取り入れていってください。

大学生活は社会に出る前の最後の準備期間です。どうか自分なりの目標・目的のある有意義な時間にしてください。

在学生

## これからを大事に

教育学部 学校教育教員養成課程3年 吉谷 拓海



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。私は今年で入学してから早くも3年目に突入しました。大学生活というものはあっというまに過ぎていきます。光陰矢の如しです。だからこそ、今の時期からやりたいこと、興味あること、夢など見つけられたならとても充実したものになるでしょう。サークル、部活、趣味などなんでもいいのです。入学したての今の時期というのは、とても楽しい時期です。私自身、2年前のこの時期は遊びほうけ、なにをするでもなく、ただただ「大学生活ってこんなに楽しいものなのか」と、思いながら墮落した生活を送っていました。しかし、時が過ぎるにつれ、また学年が上がるにつれ、これでいいものなのかと焦りが生まれてきました。しかし、気づいた時には遅く、まわりとの間に「差」が生じていました。今となってはですが、もっと早くにやりたいことを見つけれたらと後悔する時があります。だからこそ声を大にして言いますが、やりたいことを見つけましょう。私ができることはこれぐらいです。

新入生

## 将来に向けて

医学部 医学科 1年 YE WIN NAING



皆さん、こんにちは。

私はミャンマーから来たイエ ウィン ナインと申します。初めて、弘前大学を訪れたのは、去年のオープンキャンパスの頃でした。その時、ダビンチロボットを利用すると患者の痛みや傷が少ない状態で早く回復することができるという、大山力教授の講義を聞いて、それに憧れて弘前大学に入学するために必死に日本語を勉強しました。縁あって弘前大学の医学部医学科に合格でき、入学してからもう1ヶ月になりました。最初は友達がいなくてとても不安でしたが今は部活、勉強、津軽弁などを教えてくれるたくさんの先輩や友達ができました。

そもそも私が日本に来たのはミャンマーの医療を先進的なものに変えたいと思ったからです。ミャンマーの医療は日本のものと比べて30年以上遅れていると言われていています。例えば、ミャンマーでは貧富に関係のない平等な医療を受けることができません。故に私は日本で先進的な医療と医療制度を学び、自分に先進医療を学ぶチャンスくれた日本に恩返しをした後にミャンマーへ戻り、そこの医療を変えるという夢を今は持っています。

これからの6年という道のりは楽しいことも辛いことも多いと思いますが、来日した時の自分の夢を諦めず、cure(治療)とcare(予防)のできる、人間味溢れるような、そして、ミャンマーを支えることができるような医者を目指して頑張ります。

新入生

## 弘前大学に入学して

医学部 医学科 1年 梅崎 仁志

はじめまして、こんにちは。私は今、弘前大学で毎日充実した時間を過ごしています。大学と高校の違いは、大学は自分で学ぶ所だという点にあると思います。高校の授業は一方的に与えられるものでしたが、大学では自ら課題を見つけ、目標に向かって学ぶことが必要だと考えています。専門的な授業はまだ始まっていませんが、基礎人体科学演習や臨床医学入門などこれから医師になるための基盤となる授業があるので、より一層勉強に励みたいと思っています。私は医学部野球部に所属していますが、比較的時間に余裕のある学生の時に、部活動や勉強だけでなく様々な活動に参加し、医師としてはもちろん、一人の社会人として成長していきたいと思っています。本格的に医学を勉強し始めるときが待ち遠しいですし、高い志を持った素晴らしい仲間と弘前大学で学べることを本当に嬉しく思います。今の新鮮な気持ちと入学時に抱いた志を忘れず、6年間を有意義に過ごし、弘前大学の求める、豊かな人間性と広い視野、柔軟な思考力を持った医師になれるよう頑張っていきたいと思っています。

新入生

## これからの抱負

医学部 医学科 年1年 神村明日香



私が弘前大学に入学して1か月がたちました。医学部バレー部とA.C.Tに入部しました。その中で戸惑いながらも高校までとは何もかもが異なる大学生活に慣れてきました。今は大好きなダンスとバレーをしつつ新しい仲間たちと一緒に過ごす生活が楽しくて仕方がありません。弘前大学に入学する事ができて本当に良かったと思いながら毎日を過ごしています。

私は医師を目指して6年間勉強します。6年の間に学生の本分である勉強をすることで医師になるための知識を充実させる事はもちろんですが、様々な人から刺激を受けながら人間として成長する事も私の目標の一つです。患者さんに信頼してもらえるような医師になるためにはまず信頼してもらえるような人間にならなければなりません。そのために、そして大学生活を楽しむためにも友達と過ごす時間の一つ一つを無駄にせず、人と関わる機会を大切にしながら過ごしていきたいと思っています。

弘前大学で過ごす6年間が必ず私を成長させてくれると信じ、これから6年間の勉強や部活動も手を抜かずに頑張っていきたいと思っています。



在学学生

## 新入生に向けてのメッセージ

医学部 医学科 2年 伊藤 真子

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。桜とねぶたとりんごの弘前へようこそ！長く厳しい大学受験を乗り越えられ合格を掴み取ったみなさんに敬意を表します。

私も昨年入学し、今年無事2年生に進級することができました。昨年のことを思い起こしてみると、新しく始まる大学生活と一人暮らしの生活に緊張していたことを思い出します。しかし、優しい先生方、先輩方、そして何よりも心強い仲間に出会え、すぐに生活にも慣れ、勉学はもちろん自分の興味のある分野を学んだり、部活動やアルバイトなどをしながら充実した一年を過ごすことができたように感じます。この一年で感じたことは、積極的に活動することの大切さです。よく言われるように大学は高校に比べると自由な時間も増え、選択肢も増えてゆきます。そのような環境で自分を成長させることができるかできないかはどれだけ自発的に動けるかであると思います。私も常に心がけていることですが、今の自分に必要なことを見極めながら、今しかできないことを経験したり感じたりしながら自分の目標に向かい充実した大学生活を送ってほしいです。

在学学生

## 弘前大学へようこそ

医学部 医学科 2年 山崎 悠介

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。と言いながら、気づけばもう5月。新しい生活に慣れず何かと忙しく感じることもあるかと思いますが、忙しさの中に充実感を感じ、大学生活を楽しく送ることができていれば幸いです。

入学からの1か月をどのように過ごしたでしょうか。クラブ見学、アルバイト探しなど色々だと思いますが、弘前の代名詞である弘前城の桜はみなさん見たことでしょうか。青森県外出身の私が弘前城の桜を去年初めて見たとき、自然と人工物が調和して作り出す芸術作品に深い感動を覚えたとともに、弘前に来てよかったと心から思いました。

青森県にはこの他にも多くの名所があります。みなさんは弘前大学を選んだわけですから、学生生活を送る中で、与えられたことをするだけでなく自ら青森県の様々な面に触れることにより、みなさんのアイデンティティ形成に青森県独特のよさが一役立てばと思います。

しかしまずは新しい友だちを作り、学生生活の基盤を作ることが大切です。大学生活を満喫すると共にそれぞれの夢の実現に向かって頑張っていきましょう。



## 大樹をつくる

医学部 保健学科看護学専攻1年 新谷 星也

大学という新しい環境で不安もあった中、友達ができ、サークルに入り、講義にも徐々に慣れてきたと思います。大学は楽で暇だと聞き、楽で楽しい大学生活を想像していました。実際、楽ではなくむしろ忙しかったです。学科ごとの予習復習、レポートやサークルなど暇な時間がほとんどなく、慌ただしい1ヶ月でした。しかし、私は看護の道にきたことを後悔していません。

私は、推薦入試の面接のときに、一本の木を想像しながら発言していました。まず木を支える根の部分は「看護師になり人のために仕事をしたい!」という強い意思。次に幹は「チーム医療を通して患者を心身共にケア、キュアをし、自分が人として成長する」という目標。最後に枝や葉、花は「意思疎通の仕方の工夫。チーム医療に貢献するために看護師にできること。夢を叶えるために今何をすればよいか。」などいろんな考え、視点を派生させる。

私はこれを、今後の大学生活に応用していきたいと思います。看護師になりたいという根本は変わらず、まずは学業に励むという幹の部分。サークルや友人・先輩との関係の中で適切な言葉遣いを身につけ、楽しむ。また、その中でチームをまとめたり、コミュニケーション能力をつけていきたいと思っています。これを4年間続けることで、夢を実現させるための「大樹」をつくっていききたいと思います。



新入生

## 充実した大学生生活を送れるように

医学部 保健学科理学療法学専攻1年 齋藤 翼

自分が理学療法士になりたいと思ったのは、高校1年の時でした。進路についての授業でいろいろと調べていて、職業紹介の雑誌でこの仕事を知って興味を持ったのがきっかけでした。目標を早く設定し、勉強できたので無事に弘前大学に入学することができました。

そして、大学で学びたいことは大きく二つあります。一つは、理学療法士としての基礎をしっかりと作ることです。また、チーム医療も重要になってくるので理学療法だけでなく他の専攻も含めて医療について総合的な知識を得られるようにしたいです。そのために専門科目を特にしっかり勉強したいと思います。もう既に難しく大変な講義もあるけれどみんなで協力して頑張っています。もう一つは、コミュニケーション力をつけることです。理学療法士には必要な能力なので友達はもちろん、先輩や先生方ともたくさん関わることで少しずつでもコミュニケーション力をつけていけるようにしたいです。

その中で、友達や先輩方と一緒に遊んだり、勉強したりして楽しく充実した大学生生活を送りたいと思います。そして、4年で卒業して良い理学療法士になれるように頑張ります。



新入生

## 「抱負」

医学部 保健学科作業療法学専攻1年 吉川 達己

弘前大学に入学し、専門的に作業療法学を学び始めてから早2か月が過ぎようとしています。自分は高校時代から作業療法へ抱くイメージとして、障害を持つ人達と関わり、リハビリテーションを行っていくことで、障害を持つ人達の可能性を広げることができる魅力的な職業であるというイメージを持っています。もちろん現在でも考え方は同じですが、それに加えて作業療法について学ぶ中で、将来医療に携わる上で、相当な責任感を持たなければならないと気づき始めました。自分が患者に対して施すリハビリテーション次第で、患者がその後快適に生活していけるかどうかが決まりますから、そのためにも専門的な知識を深め、多くの患者さんの手助けができるよう、今後精進していこうと思っています。また、医療のチームの一員として、作業療法学だけでなく、医療全般の知識を深め、医療に関わる他の職種を理解し、上手く連携しながら、患者によりよい医療を提供できるようになろうと考えています。将来、患者に必要とされるような、また、医療のチームからも信頼されるような作業療法士となり、医療人として社会に貢献していけるよう、今後努力していきます。



新入生



在学生

## 新入生のみなさんへ

医学部 保健学科看護学専攻 4年 古川美沙希



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活にはもう慣れたでしょうか？思い返すと私の大学での3年間はとても楽しく、充実していた気がします。勉強ももちろんですが友人と旅行に出かけたり、バイトをしてみたり、部活動に励んだり…さまざまな経験を通して学ぶことは沢山ありました。

私の所属する看護学専攻では、3年生から病院を含めたさまざまな施設での実習が始まります。実習では実際の患者さんと接するため、看護学の知識ももちろん必要ですが、患者さんに親身になって寄り添うことも大切です。これらはどちらかが欠けては成り立たないものであって、だからこそ看護師としての仕事の大変さややりがいを感じることができます。

また、部活動やアルバイトではさまざまな人と関わることで、色々な考え方を学ぶことができます。私自身も現在医学部陸上部に所属していますが、競技面だけでなく、精神面でも自分を成長させてくれる素敵な仲間を得ることができました。大学では、全国から年代も異なるさまざまな人が集まっています。皆さんもこれから、学内においても学外においても人との繋がりを大切に、ぜひ充実した学生生活を送ってほしいと思います。

在学生

## ～1年生の皆さんへ～

医学部 保健学科理学療法学専攻 2年 濱田 拓実



さて、みなさんは大学生活には慣れましたでしょうか？2ヶ月間過ごし、要領もよくなってきたと思います。ただ、良くなりすぎて代返等をしている人はいませんか？代返は良くないです。急にレポート課題がその場で出されることもあるので、極力避けましょう。専門科目は、骨のスケッチ等もあり大変だと思います。しかし、将来理学療法士（PT）として働くための基礎なので、頑張って乗り越えてください。それから、部活やサークルに入っている人も多く聞きました。中にはかなり傾倒している人もいます。1年生の時間が一番自由な時間が多いので、思いっきり楽しむと良いと思います。勉強との両立はつらいですが、応援しています。続いてPTの話を少し。PTは一学年20人前後とかなり少ないですが、その分、縦のつながりが強いです。数ある飲み会や専攻行事の中で、先生とはもちろんのこと先輩とも交流を深めておくと、後々助けてくれるかも知れません。出し物も期待しています。長々と書きましたが、勉強、部活、サークル、時にはバイトや恋愛などたくさんやるがあると思います。けじめをつけて充実した大学生活を送りましょう。

在学生

## 「心から」の勧め

医学部 保健学科作業療法学専攻 3年 平田 果穂



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。まず初めに、私が好きな言葉の中の1つを皆さんに贈ります。【わたしがやったことなど誰にでもできることだ、ポイントはひとつ、心からやろうと思ったかどうかである、心が思わないことは絶対に実現できない（澤田秀雄：H.I.S.の創業者）】

いよいよ4年又は6年間の大学生活が始まるわけですが、皆さんはどんな思いで今を過ごしていますか？又、どんな日々を送りたいと思っていますか？「こんなこと挑戦してみたい！だけど…」となかなか勇気ある1歩を踏み出せない人、または、「入学したものの、自分が思い描いていたものとちょっと違うな…」と思っている人も、中にはいるかもしれませんね。

確かに、自分を取り巻く環境というのは、日々の生活において非常に大きな影響力を持っています。しかし、皆さん自身の心の思いはそれ以上の影響力を持っているのです。自分次第でどこまでも高みを目指す、それが大学生です。だから、どんな小さなことでもいいので、「自分はこうなりたい！」という夢を持って下さい。強く願うならきっとそれは叶いますよ。では、皆の毎日が素敵なものとなりますよう願ってます。

## 憧れの大学生生活

理工学部 数理科学科1年 葛西 美岬



新入生

大学生になり、早くも一ヶ月が経ちました。高校のときに比べ自由度がさらに増すということもあり、大学への入学を待ち望んでいました。新しい環境での生活に多少の不安や大変さの心配もありましたが、やはり楽しさがそれらを上回ります。それでも最初は時間割の組み方が理解できずに混乱したり、サークルでやりたいものを決めるのに苦戦したりしましたが、新しい友達や先輩方の助けもあり、なんとかそれぞれの準備ができました。

大学の講義は専門の科目の他に自分の興味があるものを選択できるということもあり、今までとは違う新鮮さを感じられ、飽きることもあまりないので良かったです。

弘前に来て、一人暮らしをするようになってから割と生活が不規則になりがちではありますが、夜はなるべく自炊をするように心がけています。さらに料理のレパートリーを増やし、より健康的な食生活ができるようになるのも大学生になってできた新たな目標です。

サークルや学科の先輩方は皆さんとても優しく面白くて素敵な方たちばかりなので、そのような先輩方とぜひこれからもっと交流を深め、仲良くなりたいです。それから学科が同じ友達とはさらに良い関係を築いていきたいです。そして、弘大で過ごす4年間をより充実した楽しいものにするために、勉強もサークルも遊びも手を抜かず精一杯取り組みたいです。

## 革新！日本よ、これが弘前だ！

理工学部 地球環境学科1年 福田 朔也

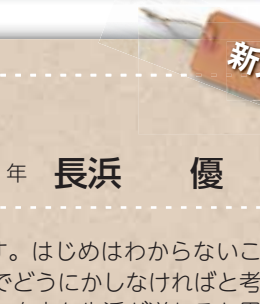


新入生

今回、私はこの場所で弘前大学にて約一月過ごした中での発見を書こうと思います。はじめに、私はこの弘前に対して強い衝撃を受けました。私は熊本出身であり、九州という狭い範囲で起こることが日常であり、またそれが当たり前だと思っていました。しかし、その常識はこの地で大きく壊されることとなります。4月でさえ降る雪、5月に咲く桜、そして同じ国なのかとまで思わせる言葉。すべてが新鮮であり衝撃でした。このような衝撃は私にとってとても面白いものでした。高校時代、私は様々な価値観、考え方をを持った人たちに出会ってきました。しかしこの大学には、それに加え常識さえ私と異なる人がいるのです。今まで知ることなかったことに触られるかもしれないこの弘前の地に、私はとてもわくわくしています。また、勉強の面でも新しい発見がありました。それは、21世紀科目です。私は学科目当てでこの大学を選びました。そのため、専門と関係のない21世紀科目は蛇足であると思っていました。しかしながらふたを開けてみると、高校時代は触れることさえなかった文系学部の講義にも大きく惹かれることになりました。また、学問として扱う内容の多様性にとっても驚きました。高校での受験のためのような勉強とは違い、自分の意思で決め、見聞を広げる。そのような大学での学びに対する今迄との姿勢の差は新鮮でした。このような経験は大学生活の中ではごく一部かもしれませんが、だからこそ、今迄では体験出来なかった、この場所だからこそできる経験を目一杯していきたい。それが今思うことです。

## 自己管理

理工学部 電子情報工学科1年 長浜 優



新入生

弘前大学に入学して約1ヶ月が経ちます。大学生になっていろいろ変わったと思います。はじめはわからないことだらけで何をしたらいいかわからず不安ばかりがつっていましたが、少しずつ自分でどうにかしなければと考えるようになり徐々に行動できるようになってきました。大学生活は今までと違い、とても自由な生活が送れると思います。友達もたくさんできるし、サークルもたくさんあり、活動もとても楽しいです。けれども、その分自己管理がちゃんとできなければいけないと思います。自由だからといって遊びっぱなしではなくしっかりと勉強して自分の将来の目標をちゃんとクリアできるようにしたい。まだ大学に入学して1か月しか経っていないが、この1か月はとてもあっという間に感じられました。とても充実していたし少しではあるが自分を変えてくれたと思います。大学の授業は高校までの授業と違い、しっかりと予習、復習をしなければついていけなくて結構大変です。正直これからどんなことをし、なにをしたらいいかわからず全然わかりませんが、先輩方のアドバイスなどをいかして頑張っていきたいです。そしてこれからの大学生活を有意義に過ごすために時間の使い方をしっかりとしていきたいです。



在学生

## やりたいことに挑戦

理工学部 物理科学科4年 鈴木 聡人



新入生のみなさん、入学おめでとうございます。新たな環境での生活は慣れたでしょうか。初めは慣れないことばかりで、非常に濃厚な時間を過ごすことになると思います。しかし、今後の4年間はそうとは限りません。これまでの学校生活とは異なり、やりたいこと・すべきことを自分で選択していくことになります。もちろん大学に入った以上、講義やレポートは必ずやらなくてははいけません、それ以外の時間もたっぷりあります。勉強は講義だけではさっぱりわかりませんから(笑)、自分の力で勉強を進めていくことが必要だと思います。

部活やサークルなどに参加するのも大事だと思います。同じ学部・学科の人たちとはまた違う考えを持った人たちと出会えるはず。自分自身、いろんな人と出会うたびに「こんな考えもあるんだ」と気付かされます。また、普段の生活では味わえないような出来事がたくさんあります。自分は1年生の頃、部活に入ろうか迷いましたが今は「入って正解だった」と胸を張って言えます。

新入生のみなさんは「まだまだ始まったばかり」と思っているかもしれません。ですが、4年間はあっという間に過ぎていきます。臆することなく自分のやりたいことにどんどん挑戦していきましょう。

在学生

## 新入生のみなさんへ

理工学部 物質創成化学科4年 竹ヶ原祐太郎



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学に入学してから2ヶ月が経ち、授業、部活、サークルなど大学生活にも慣れてきた頃でしょうか。

大学では、今までと比べて自由に使える時間が増えた人が多いと思います。その時間を無為に過ごしてしまうのはもったいないです。勉強するのは当たり前として、この時間を勉強以外のことに有効活用してもらいたいです。大学には面白い部活やサークルも多く、大学以外でも様々な講座やワークショップが開催されているので、新たな挑戦を試みるのに良い環境にあります。また、弘前はさくらまつりを始めとする楽しいイベントも多く、一人でも友達や恋人とでも遊びに行ってみると楽しいと思います。他にも、カフェが多い町なのでカフェ巡りをして比べてみるのも面白いと思います。勉強でも遊びでも、やったことは全て経験として活かされる時がくるかもしれません。やるかやらないかで迷ったら、とりあえずやってみるといいのではないのでしょうか。

就職してからのほうが金銭面で余裕ができると思いますが、大学のように2ヶ月の長期休暇のような時間の余裕は作れないでしょう。だから、この大学生活を余すところなく充実させてください。

在学生

## 新入生のみなさんへ

理工学研究科 知能機械工学コース 後藤 麻友



入学おめでとうございます。大学生活には慣れましたか？私は大学院の新入生ですが、卒業して思うことは、大学生活の4年間というのは本当にあっという間だということです。この4年を悔いなく過ごすために、私は何でも挑戦することが大切だと思います。

例えば、私は女子高から女子が少ない理工学部の知能機械工学科へ進学し、最初は慣れないことばかりでした。私にとって「機械」はとっつき難いイメージがありましたが、4年間で様々な事を学び、実際に設計や製作工程を考え、自分の手で物を完成させると達成感が味わえ、他の学部的女子では味わえない貴重な体験ができました。今思うと、大学の4年間は本当に充実した毎日を過ごすことができたと思います。

そして、留学、旅行、アルバイト等々、「興味がある！」「挑戦してみたい！」と思ったことは是非実行すべきです。例え失敗しても、必ず得られることはあります。また、その経験がみなさんの将来をつくる糧となります。私は大学時代、留学してみたいとずっと思っていたのですが、結局行動に移せず、今すごく後悔しています。

みなさんは是非悔いを残さぬように、今できることを貪欲に実行しましょう！充実した楽しい4年間となるように何事にも積極的に取り組んでください！

新入生

## 弘前大学に入学して

農学生命科学部 生物学科1年 廣田 歩武

高校の時は弘前大学に入るなんて考えてもいませんでした。獣医になりたいと思っていたので獣医学部のある大学に行こうと思っていたからです。獣医になりたいと思い始め、いろいろ調べたり獣医さんにお話を聞いていた小学生の頃の僕が今の僕を見たらきっとびっくりするでしょう。

でも今の僕は、小学生の時に思い描いていた進路とは全然違う進路を歩いてはいるけれども、とても充実した毎日を送っています。同じように生物が好きな学科の友人や自分と違う考えを持つ他学科の友人など色々な人と関わって様々な価値観に触れることができ楽しいです。

今僕は将来の夢がしっかりと決まっていませんが、様々な価値観と触れ合う中で自分のやりたいこと、自分の夢を見つけていきたいと思います。弘前大学で4年間過ごした後、僕はどんな夢を持っているのか、4年後の自分がどうなっているのか楽しみです。

新入生

## 弘前大学の新たな一員となったことについて

農学生命科学部 分子生命科学科1年 上松 興生

大学に求めるものはただ1つ、「自由」。親元を離れ一人暮らしをすることに憧れていた僕は弘前大学を受験することを決心しました。しかし、地元の大学に通うよりも経済面の負担がかかるため、両親には申し訳ないと思っています。それでもなお自分のことを応援してくれる両親には感謝しています。その思いに応えるため、弘前大学に来たからは、研究者になるという夢に向かって勉学に励んでいきたいです。研究となると一生続くものだと思うので、何が本当にやりたいことなのかを大学で学ぶうちに決めたいと考えています。正しい選択をするために、幅広い知識を定着させることは必須でありそれを効率よく学べるのがここ弘前大学です。大学生活を通して自分を磨き上げ、社会に通用する人物になることができれば、受験を乗り越えてこの大学に来た価値は十分にあると言えます。また、勉強だけでなく趣味を持つことも重要で、様々なことに興味を持って行動すれば必ず充実した生活を送れると信じています。僕はアーチェリー部を通して人間関係を学び、弘前大学の名に恥じない日常生活を送っていききたいと思います。今後、何かと迷惑をおかけするとは思いますがよろしくお願い致します。



新入生

## これからの大学生活

農学生命科学部 生物資源学科1年 佐藤 望

弘前大学に入学して早くも1か月経ちました。生まれ育った埼玉から遠く離れた知り合いもない、同じ出身地の人ほとんどいない弘前で一人暮らしを始めるというのはとにかく不安でした。しかし入ってみて1か月を過ごしてその不安は一蹴されました。そんな境遇の人はいっぱいいるし、同級生はもちろん先輩方もみんないい人だからです。部活にも入ったことで交友関係も広がりました。ただ、私は人見知りなど消極的な面もあるのでこの4年で克服し、もっと友達を増やしたいです。

学習面では、高校のような受動的な勉強ではなく、すべて自分で決める勉強なのでせっかく好きなことを学べる学科に入れたのだから深いところまで勉強したいです。また自分は海外で働くことが目標なので外国語の授業だけでなく実際に留学生の方々と話したりもしてみたいと思います。

この1か月で一人暮らしにも慣れてきました。まだまだ友達も作りたいし、未だにやったことがないアルバイトもしてみたいです。この4年間でいろんな経験をして、人間として一人前になりたいです。





## 時間を有効的に！

農学生命科学部 生物学科3年 鈴木 千尋

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます！他県の方はTVのチャンネル数を見て驚きませんでしたか。フジは映りません！それはさておき、そろそろサークルや部活動を始めたり、学校生活にも慣れてきた頃かと思います。入学前はどんな大学生活を想像していたでしょう。今までよりも自由に使える時間が多く、何より長期休みがあることに喜んでいただいたのではないのでしょうか。想像通りで喜んだ方もいれば、あまり時間割に空きがない状態になり、アレ？と思った方もいると思います。どちらの方にも言えることですが、大学では時間の使い方が重要になります。空き時間をぼーっと過ごすのではもったいないです。ぜひ有効活用してください。私個人の考えですが、興味を持った分野の知識の幅を広げ、体験をするのはもう大学生でしかできない事です。大学の講義だけでなく、学校外でも積極的にボランティアや様々な体験学習に参加して学び取ってほしいです。あれこれと、やりたい事を全てするのは難しいと思いますが、良い大学生活だったと思えるよう充実した毎日を過ごしてください！



在学生

## 新入生のみなさんへ

農学生命科学部 園芸農学科4年 橋本 莉奈

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新しい環境での生活に不安を抱えながらも、たくさんの期待を胸に入学されたことでしょうか。入学して早2ヶ月。楽しい大学生活を送れているのでしょうか。大学では自由な時間がとても多くなります。その時間をどう使うかは自分次第です。勉強、サークル、アルバイト、遊びなど使い道はたくさんあります。ここでは、農生らしいものを少し紹介しようと思います。

1つは、農場実習です。学科によって異なりますが、稲やりんごを中心とした農作物について附属農場で学ぶことができます。作業は大変なこともあります。だからこそ収穫した農作物はより一層美味しく感じられます。

もう1つは、農学生命科学部公認サークル「りんごの会」です。附属農場のりんごの木を数本借りて様々な種類のりんご栽培を体験することで、りんごに対する知識・理解・技術を深めることを目的としています。収穫したりんごは文化祭などで販売しています。

大学4年間は長いようで本当にあっという間です。勉強以外にもやりがいのあることを見つけて、大学生のうちにはできないことを思う存分満喫して、悔いのない大学生活を送ってくださいね！



在学生

## 後悔しないように後悔しよう！

農学生命科学研究科 農学生命科学専攻1年 清水 秀成

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学はこれまでの生活に比べて、自由な選択ができる場だと思います。例えば、受講する講義や所属する研究室、部活動やサークル、アルバイトなど様々な場面で多くの選択肢が与えられます。これらの選択肢に対して、たくさん迷い、たくさん悩んでください。選択というのは、そう決めたことで他の可能性を切り捨てることです。「こっちの道がベストだから」という選択の仕方は、なにより無難だし良いことだと思います。「あっちの道に挑戦してみようかな」というチャレンジ精神も重要だし、自由だからこそできる選択の方法だと思います。どのような選択であろうと、良かったと思える点と、やめとけばよかったと後悔する点を持っています。選択の結果だけでなく、過程をも楽しみましょう。そうすることで、ほとんどの選択は最低でも「まあよかったかな」と思えるものになると思います。考えもせずになんとか選択したり、流れに任せると4年間という短い大学生活は、平凡以下のまま過ぎ去ると思います。

どのような選択も必ず「後悔が存在する」んだから、どうせ後悔するんならたくさん迷って悩んで後悔の方がマシだと思わない？



在学生

# 教育学部美術教育講座

絵画ゼミ（岩井康頼教授）／ 日本画・美術科教育ゼミ（蝦名敦子教授）／ 彫刻ゼミ（塚本悦雄准教授）  
ビジュアルデザインゼミ（佐藤光輝准教授）／ プロダクトデザインゼミ（石川善朗教授）  
美術科教育ゼミ（富田晃准教授）／ 美術理論・美術史ゼミ（出住奈子講師）



この講座は、絵画、彫刻、工芸、デザイン、美術理論・美術史、美術科教育の各分野において、制作活動および研究を行う場です。7つのゼミからなる本講座には、教育学部学校教育教員養成課程と生涯教育課程芸術文化専攻に所属する、美術に関心を持つ学生たちが集まっており、現在、学部生50名と大学院生9名が在籍しています。学部学生は、2年生になる時期に所属ゼミを決め、それぞれの分野において、より専門的な制作や研究活動を行っていくこととなります。毎年5月には新入生歓迎会が開かれ、そのほかにも、ゼミ毎に、あるいはゼミを超えて、独自の制作体験や展示活動、学生によるグループ展の開催、美術館見学、映画鑑賞会も行っており、美術を通して、学生同士の交遊も広がっています。また2月には、4年生による卒業制作展を学内と学外（弘前市内のギャラリー「SPACE DENEGA」等）で行うことで、4年間の集大成とし

ての作品や研究内容を学内外の人びとに見ていただき、さらなる制作活動、そして教育活動につなげていくことも試みています。

美術教育講座という名称が示すように、この講座ではまず、小・中・高の美術教員として、教育の場で求められる多様な事柄に応え、そして、美術の持つ魅力や表現の面白さ、作品を味わうことの醍醐味を生徒たちに伝えることのできる人材の育成を目指しています。4年間の大学生活では、美術領域におけるさまざまな表現の実践や、鑑賞活動、教育実習を行い、幅広い視点から美術について学んでいきます。他方、制作や研究活動に集中したいという学生にとっては、作品制作にじっくりと取り組みながら自己の表現を追求すること、また、関心のある時代や地域の美術作品や作者についてより専門的に研究し、美術と人との繋がりについて歴史的・文化的視点から考察することができるというのも、この講座



の特色です。各ゼミの先生は、学生の求めに応じて、制作および研究活動を深める一助となるべく努め、また、学外での展示や制作、見学活動を通して、学生と地域社会との繋がりを模索しています。

ゼミには、絵画ゼミ、日本画・美術科教育ゼミ、彫刻ゼミ、プロダクトデザインゼミ、ビジュアルデザインゼミ、美術科教育ゼミ、美術理論・美術史ゼミがあります。ここからは、各ゼミにおける多様な活動内容を紹介していきます。

## 絵画ゼミ (岩井康頼教授)

絵画研究室では油彩画・水彩画・テンペラ画・版画を通して表現の可能性を実践しています。4年次には卒業制作発表がありますが、そのほかに意欲的な学生に対して絵画・版画研究室独自で「個展の企画」をし、学外への発表の場としています。実際の展覧会の企画・展示を通して作品等の発表のノウハウも学ぶことができます。これまで、20人の企画を行いました。

版画では主に腐蝕銅版画(エッチング・木版等)が体験できます。毎年、町田市立国際版画美術館で開催される全国大学版画展に弘前大学の代表出品者として、2,3人推薦しています。



絵画ゼミ 卒業制作展の会場風景

また、興味のある学生には、卵で描くヨーロッパ中世の技法・テンペラ画の「古典画技法」も学べます。



日本画ゼミ 卒業制作の様子

## 日本画・美術科教育ゼミ (蝦名敦子教授)

教員養成課程と生涯教育課程の両方の皆さんが集まりますので、基本的には学生の意向に合わせて卒業制作に向けてゼミをしています。日本画を制作したいというゼミ生は、大体100号2点の容量で制作し、提出しています。しかし、必ずしも日本画制作だけではなく、図工・美術科の教科教育に関わる教材研究などの内容も取り上げることができます。とくに小学校専攻の方々は、多様な教材研究ができるのではないのでしょうか？

日本画制作を通して表現とは何か、また広い視野から学校教育における図工・美術科の教科性について考察しています。

## 彫刻ゼミ

(塚本悦雄准教授)

作品制作を通し、卒業後も継続的な制作活動が出来るよう、また、教育者としての自信が持てるよう、その礎となる造形力や表現技法を身につけます。具体的には、2年生でデッサンや石膏像の模刻制作などを通し、立体表現の基礎を学び、3年生からは各ゼミ生が自身で制作テーマ、素材を設定、選択し、卒業研究に入ります。木彫での刃物の研ぎ方や寄せ木の方法、石彫での大きく重い石材の動かし方を含めた加工技法、また、大型作品の石膏等による型取りなど、より専門的に学んでいきます。その他、制作以外にも様々な作家、作品を紹介する時間を設け、彫刻だけではなく美術全般への視野も広げていきます。それらを通し、現代における彫刻表現の可能性を追求しています。



彫刻の授業の様子

## ビジュアルデザインゼミ

(佐藤光輝准教授)

絵や写真、コンピュータグラフィックスなどを使用して、視覚で伝え合うコミュニケーションのためのデザインを研究しています。ゼミの活動では、学内外から依頼される様々なデザインを学生が担当して制作を進めています。これまでには、ロゴマークの制作、ポスターデザイン、キャラクターデザイン、

Webデザイン、絵本制作、写真展の開催、等をおこなってきました。2011年には日本酒ボトルの制作でグッドデザイン賞も受賞しました。



ビジュアルデザインゼミ 学生の作品

## プロダクトデザインゼミ

(石川善朗教授)

主に立体系のデザイン研究を行っています。その中には地域の伝統工芸研究も含まれます。産業デザインとしての製品開発や、コンピュータグラフィックス（2次元CGや3次元CG）、デザインマーケティング、さらには映像制作やフィギュア（人形）制作なども対象です。年に一回ガラス研修旅行にも行きます。ゼミの中ではまずCGの基礎を学んでからパッケージの立体表現を2年次に学び、3年次ではレジンキャストを用いてアクセサリー製作、製品造型方法などを学びます。4年次からの卒業制作では、各自の意図でファッションデザインから伝統工芸、照明器具、紙模型など多彩な作品が並びます。



プロダクトデザインゼミ 学生の作品



## 美術科教育ゼミ (冨田晃准教授)

本研究室は、新しい何かを生み出す苦悩と喜びを味わいつつ、人間の創造性発揚の場としての美術教育のあり方を探ることをしています。図画工作や美術といった学校教育の場とともに広く生涯学習や社会教育におけるアートにも注目しています。具体的には、例えば、ドラム缶を素材にしてハンマーで叩いてつくる楽器スティールパンや、無数の陶片で風鈴のように涼やかな音環境をつくりだす音具「ささやきの壁」をつくるワークショップを附属学校、市民講座、被災地などで展開しています。学生はこうした活動に参加しつつ自らの研究テーマをみつけ、その実践をととして論文や作品などにまとめていきます。



美術科教育 教育学部附属特別支援学校にて



見学旅行 法隆寺にて

## 美術理論・美術史ゼミ (出佳奈子講師)

古来、美術というものは、人びとの日常的な営みや、社会生活、文化環境において、どのように存在してきたのか、という大きな問いのもと、学生の関心に応じて、個別の作品や作家を取り上げ、それぞれの研究テーマについて深く考察していきます。教員の専門領域はイタリア・ルネサンスの美術史ですが、ゼミにはそれぞれ異なる時代や地域の美術に関心をもつ学生も多く、日本や東洋の美術も含め、より幅広い研究テーマに対応できるようこころがけています。また、生涯教育課程では、学芸員の資格を取得できることから、美術館学芸員の仕事の一つである展覧会のカタログ作りを念頭においた活動もしています。なお、毎年ではありませんが、東京や関西まで見学旅行に行くこともあります。

大学の4年間を経た学生たちのその後は、美術教員として日々子どもたちに接したり、デザインに関連する企業等で活躍したり、大学院に進学してさらなる表現の追及を行ったりとさまざまです。美術という一つの共通テーマのもと、その多様なありようを多角的にとらえ、社会との接点を模索するこの講座での学びが、それぞれの将来の糧となることを願っています。

<http://www.facebook.com/hirodaibi> (フェイスブック)  
<http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/usr/ms/bijutsuka> (ホームページ)

# 弘前大学からの語学留学

教育学部 学校教育教員養成課程 中学校教育教員養成課程 英語専修 日村 優樹



弘前大学からの交換留学生としてアメリカ合衆国のメイン州に来て2か月がたちました。メインには10か月滞在の予定です。今は英語を第2言語とする人々のための語学学校で大学の学部の授業に必要な英語力を身に付けるために毎日英作文とディスカッションを中心に勉強しています。こちらに来てすぐのころは、周りの人が何を話しているのか聞き取ることが出来ず、1つの授業で聞き取れる英単語は数えるくらいしかありませんでした。しかし、時間がたつにつれて英語に耳が慣れ、少しずつ理解できるようになりました。語学学校には中国、韓国、サウジアラビア、パナマ、ブラジル、フランス、スペインなど日本ではなかなか会うことのできない様々な国出身の人たちがおり、彼らはみな熱心に勉強しているのでとてもいい環境で勉強することが出来ています。また、毎週金曜日にはハイキングやショッピングなどのアクティビティがあり、先生方や友人とメイン州の観光地を訪れたり、自然や文化を体験したりすることもできます。

弘前大学からの交換留学をする決心をした大きな理由は2つあります。1つ目は自分の英語力をもっと上げたいと思ったということです。私は英

語の教師を目指しているのですが、昨年度の教育実習で自分の英語力の無さを痛感しました。英語のプロであるべき英語の教員になるためには英語圏に留学して英語力を上げる必要があると感じたのです。2つ目の理由は様々な文化圏の人々とコミュニケーションをとりたいと思ったことです。多種多様な価値観やバックグラウンドを持った人々と触れ合うことによって、自分の視野を広げ、物事を様々な視点から捉えたり考えたりすることが出来るようになりたいと思ったのです。弘前大学の交換留学制度を用いると入学金と学部の授業料が免除になり、留学にかかる費用を最小限に抑えることが出来るだけでなく、学校が私たち留学生をサポートしてくれます。このことも私が留学を決めた理由の1つです。

メイン州はアメリカ合衆国の北東部に位置しており、自然が豊かでとても過ごしやすいです。天気がいい日は、空が青くとっても美しく、まるで時間が止まっているかのように感じる時があります。メイン州の人たちは私たち外国人に対して親切なので、不安になったり心細いと感じたりすることがあまりありませんでした。メイン州は青森県と友好協定を結んでおり、たくさんの留学生を



# state of Maine



受け入れています。また、私たち留学生にとって素晴らしい環境が整えられています。

海外留学で学べるものは計り知れないと思います。英語圏の国にいれば日本では触れることがなかなかできない生の英語に触れることができます。学校だけではなく、買い物に行ったりレストランで注文をしたりするときなど、身の回りのリアルな英語に触れる機会がたくさんあります。また前述した通り、様々な国からの留学生が集まっているという環境下において多種多様な文化圏の人々とコミュニケーションをとることによって日本人との考え方や物の捉え方の違いに気づき、自分の視野が広がるだけではなく、日本の良さを再発見することもできます。インターネットや新聞等を用いれば他の国々の文化を知ることは可能ですが、実際にその地で生活をして、見たり感じたりすることで吸収できるものは比べ物にならないぐらいかけがえのないものになると思います。留学を考えているみなさん。留学したいと思うならぜひチャレンジしてください。自分の語学力に自信がなくても大丈夫です。大切なのはどんなことから逃げずに挑戦し続けることだと思います。できるだけ多くの情報を集めて後悔の無い決断を

してください。

最後になりましたが、私に留学の機会を与えてくださった家族や、全面的にサポートしてくださった先生方や国際教育センターのみなさん、相談に乗ってくれた友人には心から感謝申し上げます。残りの留学生生活を精一杯頑張りたいと思います。





人文学部 講師

河合 正雄

本年4月1日付で人文学部に着任いたしました河合正雄と申します。専門は憲法学で、イギリスとヨーロッパ人権裁判所の事例を題材として、受刑者の権利を研究テーマにしております。本年度は人文学部の憲法Ⅰ・憲法Ⅱ・統治機構法、理工学部の日本国憲法を担当させていただきます。弘前での生活も慣れ、毎日を楽しんで過ごしております。これからお世話になります。よろしくお願いいたします。

人文学部 講師

栗原由紀子



4月より人文学部に着任しました栗原由紀子です。こちらに赴任してから、岩木山のなんとも美しい姿に感動し、最近では、力強く芽吹く樹木の様子に魅了されています。専門は統計学であり、既存の、異なる複数のデータセットを上手に活用して、新たな情報の獲得を図るデータ融合の研究に取り組んでいます。分かりやすく役に立つ授業を心掛けて、学生さんとともに成長していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



人文学部 講師

恩田 睦

4月1日付で人文学部に着任しました恩田睦です。幼いときから鉄道好きで（今でいう「鉄ちゃん」です）、それが高じて鉄道の歴史を研究しています。専門は経営史ですが、具体的には戦前の地方鉄道会社の経営展開を、企業家や株主などの「人」の行動に注目した研究をしています。青森県は、弘南鉄道・津軽鉄道という鉄道会社のほか北海道新幹線の延伸というように鉄道の話題が豊富です。鉄道に興味がある方は是非、研究室に遊びに来てください。

教育学部 准教授

篠塚 明彦



4月に教育学部社会教育講座に着任いたしました篠塚明彦です。専門は、世界史を中心とした歴史教育・社会科教育です。これまで、長い間、神奈川と東京の高校・中学校の現場で教壇に立って参りました。これまで培ってきた現場経験を活かして本学の教員養成に貢献していきたいと思っています。また、地方と東京の関係や日本社会全体の様子を、弘前から見つめ直してみたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



教育学部 講師

安達 知郎

平成25年度より、弘前大学教育学部に着任しました安達知郎と申します。私は高校卒業とともに信州大学理学部に入学し、物理学を学びました。そして、信州大学卒業後、3年次編入で東北大学文学部に入学し、哲学を学びました。その後は、東北大学大学院教育学研究科で臨床心理学の研究、実践を重ね、昨年度、博士課程後期を修了しました。大学教員になったばかりでわからないことだらけですが、どうぞ、よろしくお願いいたします。

医学研究科 内分泌代謝内科学講座 教授

大門 眞



2月から内分泌代謝内科学講座に赴任致しました。糖尿病等（代謝異常）のありふれた疾患や、珍しい病気と思いがちな、しかし実は結構多い内分泌疾患を担当致します。これら疾患は、全身性疾患で、生体の情報統御システムの障害で起こる死につながる疾患ですが、軽い体調の変調や機能障害、生活の質の低下という面からも重要です。健康寿命延長へ向けて、臨床、研究に取り組んでいきたいと思っております。宜しくお願い致します。



大学院医学研究科 准教授

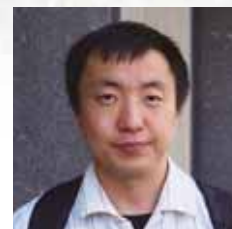
木下 正治

4月1日付けで医学研究科統合機能生理学講座の准教授として着任しました木下正治と申します。これまでニホンザルの脳—中枢神経系の視覚、運動機能の研究を、主に金属微小電極記録法を使って行って来ました。近年はさらにサルの神経細胞にウイルスベクターを用いて遺伝子導入し、その機能を操作的に調べる研究を行っています。今までは研究一筋でしたが、今後は教育にも取り組んでいきますので、どうぞ宜しくお願い致します。



理工学研究科 准教授

御領 潤



とてもよく晴れた2月1日に着任致しました。こんなに天気がいいのは冬では珍しいとの事でしたが、その後3ヶ月住み、ああ、なるほどと納得している今日この頃です。私の研究室では物性（凝縮系）物理の理論的研究を行っています。なかでも超伝導の割合が大きいです。超伝導は100年の長い歴史を持つと同時に新しい発展も絶え間なくある、とてもエキサイティングな研究分野です。興味があれば遠慮なく研究室を訪問してください。



農学生命科学部 准教授

丸居 篤

平成25年4月に農学生命科学部地域環境工学科に着任いたしました。農業に必要な水量や水質など、農村環境問題について日本のローカルな課題から、世界のグローバルな課題まで教育研究を行ってきました。世界の穀物生産量はかんがい農地によって支えられおり、今後ますます、農業への水需要が増加すると言われています。農業と水について学んでみませんか？これからよろしくお願いたします。

農学生命科学部 准教授

森 洋



平成25年4月1日付で農学生命科学部地域環境工学科に着任致しました。3月末までは、東京都庁の一職員として働いていましたので、生活と職場環境が180度変化して少し戸惑っています。専門は、土構造物の力学的安定と性能・機能評価についての研究に取り組んでいます。最近では、液状化による土木施設構造物への影響についての研究も進めているところで。今後とも宜しくお願致します。



農学生命科学部 准教授

叶 旭君

2013年4月に農学生命科学部に着任致しました。東京農工大学大学院連合農学研究科（農業工学）を卒業後、東京大学大学院農学生命科学研究科でポスドク研究を行ってきました。博士課程では、ハイパーとマルチスペクトル・イメージング技術を用いた、温州みかんの隔年結果のダイナミクスを予測する手法を開発しました。ポスドクの研究では、野菜の鮮度を評価する非破壊的な分光法の可能性を調べ、スペクトルデータに基づいた細胞のATP含有量測定の新たなアプローチを開発しました。これからは、センシング技術の農業と食糧分野への応用に関する研究を続けていきたいと思ひます。よろしくお願いたします。

農学生命科学部 准教授

池田 紘士



4月より農学生命科学部生物学科に着任いたしました池田紘士です。甲虫やミミズを主な研究対象として、その進化や群集について研究を行ってきました。青森県には、白神山や岩木山といった山々に加え、低地には湿地や草草が広がるなど環境は実に多様で、調査を行うには十分なフィールドが広がっています。学生さんと一緒に、このようなフィールドを活用して研究ができればと考えています。どうぞよろしくお願いたします。



農学生命科学部 准教授

濱田 茂樹

この4月に農学生命科学部分子生命科学科に着任いたしました。これまでは酵素化学を中心に、作物の澱粉・貯蔵タンパク質の生成や植物・微生物由来タンパク質の機能解析を行ってきました。最近では、酵素を利用した物質生産の研究にも興味を持っています。教育と研究の両面から、青森県の基幹産業である農業に少しでもお役に立てればと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

## 弘前大学ゆめ応援プロジェクトの紹介

本プロジェクトは、自分の夢を叶えるため本学への入学を希望しているにも関わらず、経済的理由により進学をあきらめなければならない環境にある学業優秀な者に対して、入学前に経済的負担を軽減することを確約し、優秀な学生の本学への進学を応援することを目的とし、平成25年度入学者から開始した事業です。

内容としては、入学料の全額免除です。

申請資格は、本学の入学試験に出願し、合格した場合は本学への入学を確約する者で、以下の基準を満たすことです。

①高等学校等を卒業見込みでかつ評定平均値が4.0以上の者。

(評定平均値は、高等学校等調査書の全体の評定平均値とします。)

②家庭の年間総所得金額が、本学における授業料免除基準以下の者。

平成26年度入学者を対象とした本プロジェクトへの申請期間など問い合わせ先は、

**弘前大学学務部学生課 ゆめ応援プロジェクト担当**

**0172-39-3112**

へどうぞ。

## 東日本大震災における被災者の支援活動等に対する感謝状を受け取りました

5月16日(木)、東日本大震災における被災者の支援活動等に対する厚生労働大臣感謝状の伝達式が青森県庁で行われ、青森県の青山副知事から佐藤学長へ感謝状が手渡されました。

本学では、東日本大震災が発生した直後から、DMA T派遣や被災地域病院等への医療支援、福島県へ「被ばく状況調査チーム」等の派遣、岩手県野田村をはじめとした被災地へのボランティア活動など様々な支援活動を行ってきました。

本学の支援活動をとりとまとめた「東日本大震災に関する弘前大学の対応について」はコチラ <http://www.hirosaki-u.ac.jp/houdou/shinsai/taiou/ichiran.html> をご覧ください。



## VII 編集後記

最近、急に暑くなってきた。おまけにまだ6月だというのに台風までやってくる、というありさま。ところが一方、この冬は、寒い日が連日続き雪もやたらと多かった。さらに5月に入ってもまだ寒さは続き、今年ほど桜・花や新緑の彩りが待ち遠しかった事はなかった様な気がする。それにしても、最近の世の中は一事が万事この様な調子である。本当に極端から極端、という感じがする。

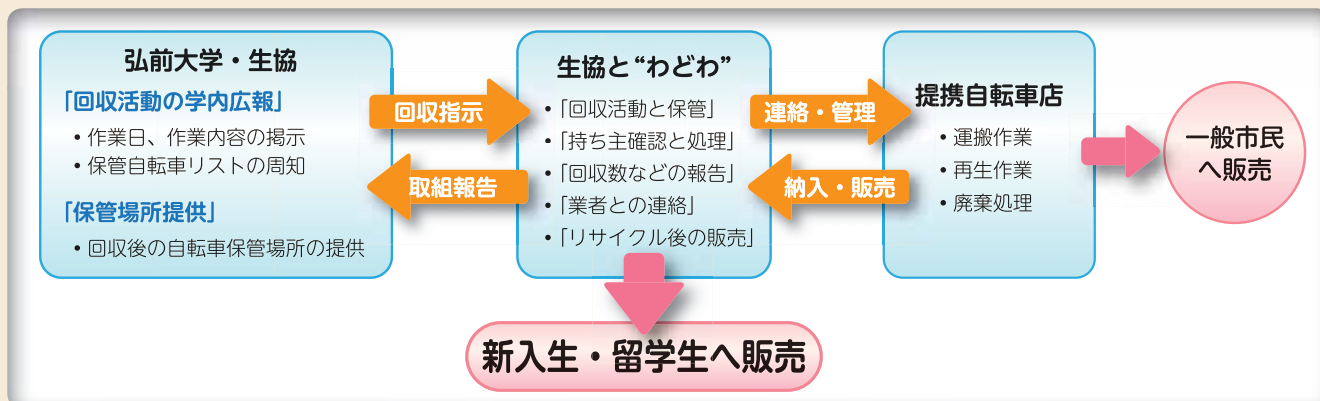
さて学園だよりであるが、各年度の第1号は恒例の新入生特集である。内容としては新入生だけではなく、上級生や学部長などから新入生に対しての意見やメッセージが寄せられている。これは人生という年輪をひとつの断面で切ったような感じで、現時点での各自の人生経験が凝縮されているような文章で面白い。何かとスピードを求められる世の中になったが、地面に着実に足をつけて年輪をひとつずつ刻んでいきたい、と思う今日この頃である。(ま)



## 弘大生協は学内放置自転車のリサイクル活動に取り組んでいます

今年も弘前大学より委託を受け、学内に放置された自転車の回収、リサイクル、販売を弘前大学生協が実施しました。弘前大学生協では、学生委員会と環境サークル「わどわ」の学生が中心となり、KES推進委員会活動の一環として大学の協力を得ながらリサイクル活動に取り組んでいます。

### 【構内放置自転車 回収から再利用までのフロー】



昨年回収をしてリサイクルした自転車は、今年4月6、7日に開催した「フレッシュフェスタ」にて販売を行いました。自転車購入するために、朝からたくさんの来場があり141台を販売しました。



教育北側駐輪場の自転車を整理



整理後に、勉強会。



今回は60名の学生が参加

また5月11日、18日には放置自転車の整理・回収を行いました。11日(土)は58名の学生が参加をし、放置されている自転車を各駐輪場の一か所にまとめる整理活動を行いました。その後朝食を食べながらリサイクルについての勉強会を行いました。18日(土)には整理した自転車を大学内所定の保管場所に移動しました。

2日間、学生、職員合わせて121名という過去最高の人数で実施しました。18日に保管場所に移動した自転車は、登録番号や、保管場所をデータにし、そのリストを21日(火)に大学会館掲示板、および生協ホームページに掲載しました(回収した自転車のうち持ち主の申し出があった場合は、持ち主に返却をします)。残った自転車は6月下旬に「リサイクルショップおさない」が引き上げ、リサイクルをします。

## 生協内製弁当の容器回収にご協力ください



弘前大学生協では弁当容器のリサイクルにも取り組んでいます。弘大生協の店舗で販売している内製弁当(丼、幕の内)の容器は、販売の際にデポジット容器代として10円をお預かりしています。

**容器を各店レジに持参すると10円が返却されます。**

ごみによる環境負荷を少しでも減らすため、容器の回収にご協力ください。

弘前大学生協同組合 TEL:0172-34-4806



HIROSAKI  
UNIVERSITY

弘前大学 学園だより Vol.178

2013年6月発行

学園だよりに関するご意見がございましたら、  
下記のアドレスまでお寄せ願います。

e-mail: [jm3113@cc.hirosaki-u.ac.jp](mailto:jm3113@cc.hirosaki-u.ac.jp)

弘前大学学務部学生課

国立大学法人弘前大学「学園だより」編集委員会

委員長

保田 宗良 (教育委員会)

委員

加藤 恵吉 (人文学部)

出 佳奈子 (教育学部)

松谷 秀哉 (医学研究科)

米内山 千賀子 (保健学研究科)

宮本 量 (理工学研究科)

栗田 大輔 (農学生命科学部)

澤田 祐子 (学生課)

粕谷 常好 (学生課)

印刷：やまと印刷株式会社

